2014春闘

会社は３５００円の要求にもこたえられないのか！

ＪＦＥ統合以来初めてのベースアップに職場は大きな期待を寄せました。会社は、組合要求の３分の１にも満たない１０００円（２年で２０００円）という超低額の回答をしてきました。

超低額回答に失望と怒り

回答を受けて、職場では失望と怒りの声があがっています。

「えらく値切られたもんだな」

「１０００円なんて30分の残業代にもならないよ」

「消費税増税なんかで月に２万円の負担増だ。今でも苦しいのにこれじゃ火の車だ」

「かあちゃんは、１０００円の回答を見て、一言もなかったよ」

賃金は本人と家族の生活費です。衣食住、養育費、文化教養費など家族が健康で文化的な生活ができるものでなくてはなりません。

04年から12年までの８年間、賃上げがなく、３万４８２５円も賃金が低下しています（ＪＦＥスチール労連「私たちの労働条件」）。

３５００円の要求はきわめてささやかな要求であり、会社は満額回答でこたえるべきです。

会社の支払能力は十分にあります

回答にあたって会社は、「支払い能力」や「コスト増」につながるから賃上げはできないと言っています。

しかし、会社の支払能力はまったく心配ありません。３５００円の満額回答に必要な額は、わずか22億円にすぎません。

今期、ＪＦＥホールディングスは１７００億円、ＪＦＥスチールは１３００億円の連結経常利益を見込んでいます。

たとえ赤字でも、ＪＦＥホールディングスは、ためこんだ１兆８５２８億円という膨大な内部留保があります。そのたった０・12％取り崩すだけでも、きわめてささやかな３５００円の要求に満額回答できます。

会社は、ベースアップの要求に応じると将来にわたり「労務コストの増額」につながるといいますが、もうけが減るから賃上げしないというのでは、労働者の生活を守り、向上させることも、デフレ不況の打開もできません。

満額回答で労働者の家計をあたためることこそ、デフレ不況打開のカギです。

グループ・関連組合は19日が回答日
ＪＦＥの低額回答で足をひっぱるな

19日はグループ・関連組合の回答日です。

京浜地区の生産を支え、働く人の８割近くを占める関連労働者の賃金は、ＪＦＥ本体の６～７割という低さです。ＪＦＥの下請単価を引き上げさせ、今春闘で満額獲得し、格差を少なくし、暮らしを守ることがどうしても必要です。

そのためにもＪＦＥの低額回答が、グループ・関連組合の回答の足をひっぱることがあってはなりません。労働者の切実な願いを力に、ＪＦＥ、関連組合がともに要求の満額獲得をめざし、粘り強くたたかいましょう。

関連組合の要求額

	要求額（単位・円）	
	14年度	15年度
JFE物流	3,500	3,500
JFEミネラル	3,500	3,500
JFEメカニカル	3,500	3,500
JFE電制	3,500	3,500
京浜物流	3,500	3,500
JFEウイング	3,500	3,500
森工業	3,500	
泉企業	3,500	
JFEベルテック	3,500	3,500
長戸工業	3,500	3,500

14年春闘　主要企業の回答状況

		ベア（円）		一時金（月数）	
		回答額	要求額	回答	要求
鉄鋼	ＪＦＥ	1,000	3,500	業績連動	
	新日鉄住金	1,000	3,500	業績連動	
自動車	トヨタ自動車	2,700	4,000	6.8	6.8
	日産自動車	3,500	3,500	5.6	5.6
	ホンダ	2,200	3,500	5.9	5.9
電機	日立製作所	2,000	4,000	5.62	5.8
	三菱電機	2,000	4,000	5.74	5.8
	パナソニック	2,000	4,000	業績連動	

2014年3月19日

「パワハラ」やサービス残業問題など、遠慮なく相談のお電話を
「合理化問題１１０番」（TEL ０４４－２１１－３５９４）

JFE京浜・権利闘争すすめる会
ＦＡＸ　044-211-4891